

七飯町立七重小学校 学校改善の取組について②【主な取組】

(1) 学校マネジメント

項目	具 体	実践状況	本校での主な取組
ア 学校の教育目標の実現に向けた中期・短期のビジョンの明確化と教職員、保護者、地域住民等との共有	・重点教育目標の実現に向けた中期・短期ビジョンの明確化	◎	◇グランドデザイン・学校教育計画の作成(主幹) ◇NPJ(教育課程評価改善会議)による短期的ビジョンの共有と実践化 ◇全教職員参加による教育課程の編成(拡大NPJ)
	・教育課程の実現に向けたビジョンの共有(教職員、保護者、地域)	◎	◇グランドデザイン …教職員、地域、他校等 ◇学校教育計画 …教職員、保護者、地域、他校等 ◇上記に関わる情報発信(ALU付入) ◇NPJ(教育課程評価改善会議)によるビジョンの明確化と共有
イ ビジョンの実現に向けた校内組織の工夫		◎	◇分掌改編 ・「教育支援部」を新設。本校の実態及び課題改善のため、児童理解や各種連携、実践方法の提案等に関わる部分。生徒指導部と役割を分けた。 ◇NPJ ・分掌代表、学年代表で行う教育課程の短期的評価会議
ウ 学校の検証改善サイクルの実質化・迅速化 ※ Specific：具体性 Measurable：測定可能性 Achievable：達成可能性 Reasonable：合理性 Time-bound：期限の有無	・全国学力・学習状況調査及び全国体力、運動能力・運動習慣等調査等を活用したデータに基づく現状・課題の徹底的な分析	◎	◇学力(学習部) ・学習部による分析、方向性の提示 ・算数科におけるターゲット単元の設定と年間指導計画への位置づけ ・七小スタイルを持続可能な文化へ ・読解力向上の取組 ・TTやフリー教員による複数教員の教室配備 ・朝学習による補完学習の実施 ◇体力(保体部) ・保体部による分析、方向性の提示 ・教育課程への反映(本年度は授業改善、課題改善への取組の強化) ●全校の傾向を数値として把握し、より明確に教育課程への反映させる
	・SMART※1の考え方に基づく目標設定	◎	◇NPU・NPJ(教育課程G) 学力向上委員会(指導G)
	・学校関係者評価と連動したマネジメントサイクルの確立	◎	◇学校評価の短期サイクルと年度サイクルの実施・確立
	・各種標準学力テストの検証改善サイクルへの効果的位置付け等	◎	◇前述
エ 有識者、義務教育指導監、指導主事からの指導助言及び教育課程・指導方法等の不断の見直し		○	◇実施

(2) 人材育成

事業項目	具 体	実践状況	実践内容・見通し 等
ア 若手教員や将来のスクールリーダーの計画的な育成を目指した総合的な取組	・管理職等による日常的な巡回指導や授業研究	◎	◇日々実践・日々具現・日々深化 「わかりやすい」授業の安定展開のための短時間対話 ◇基礎となる学級・学年経営の充実のための短時間対話
	・計画的な放課後のテーマ別研修	◎	◇研究部による年間計画(研究と研修) ◇週1回のN studio(初任研)の設定
	・メンターチーム方式による研修	○	◇シャドーイング研修(全職員の授業提供)と様々なテーマへの講話(本校教員)
イ 初任段階教員研修等を自校	・授業日における校外研修の原則	◎	◇スキルアップと人材育成を目的とし

	で実施	廃止		た校内研修, ミニ研修, Nstudio
ウ	放課後のテーマ別研修への他校教員参加の積極的受入	(実践指定校間の合同研修の実施を含む)	△	◆GIGAスクール構想を基盤とした地域間連携の迅速化と強化
エ	日常授業の改善に直結する校内研究(研修)の重点化	・改善に直結しない研究や大部の研究紀要の廃止など抜本的見直し	◎	◇主体的・対話的で深い学びを視点とした授業のUD化 ◇使える場の意識化(教科の見方・考え方, モデル化) ◇個人・学年による意識化(仮説検証)
		・優れた教育技術や効果的な教材の積極的共有	◎	◇使用教材のデータ化と共有保存 ◇七小ハンドブック ・算数「七小スタイル」 ・道徳「七小スタイル」 ・
		・無理なく参加できるミニ研修やワークショップ型研修の充実	○	◇シャドーイング研修と講話, 対話 ◇各分掌主催の月2回のミニ研修(30分研修) ◇校内研究事後研のワークショップ型研修(ワイガヤ)
オ	「教員育成指標」を踏まえた教員の資質能力向上を目指した取組の充実		○	◇初任段階…指導教官と主幹教諭による計画化
			◎	◇中堅段階…分掌のリーダーとして配置。学校経営の中核を担う。 ・NPJへの参加 ・研修内容の学年団、分掌への還元
			○	◇ベテラン段階…指導的立場として、初任段階教員の師範授業等の提供
カ	通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒への指導や支援に関する専門性向上に向けた研修の実施	(「校内研修プログラム」等の指導資料や事例集の積極的な活用)	○	◇教育支援部を中心に、児童の安心・安定のための環境のUD化の研修 ◇外部講師の招聘 ・発達障がい者支援センター「あおいそら」職員
キ	実践指定校の取組を普及する市町村単位の研修の実施	(実践指定校関係者の意見を十分に踏まえた研修の組み立てを含む)	△	◇講師招聘による講演会・研修会実施予定(11月上旬) ◆新型コロナの状況を踏まえての計画化

(3) 教育課程・指導方法等

	事業項目	具 体	実践状況	実践内容・見通し 等
ア	「カリキュラム・マネジメント」の確立	・全ての教職員が「カリキュラム・マネジメント」の必要性の理解	◎	◇七小グランドデザインの作成と周知 ◇カリキュラム可視化による共通理解 ◇全職員による教育課程の編成(拡大NPJ)
		・教育課程全体の中での位置付けを意識した日常の授業	◎	◇教育課程推進プログラム「なないろスタイル」=学年経営案Ⅱ
イ	学年ごとの最低限の到達目標を設定	(学力、体力、生活リズム等)	△	◇学力や体力は学習内容の確実な定着化を図るために、前年度との比較・分析を実施。生活リズムは目安になるものは提示。ただ到達目標設定・評価改善には至っていない。
ウ	発達の段階を踏まえた全学級における学習規律・生活規律の統一及び徹底	・中学校区での統一も積極的に推進	○	◇小中連携会議において、現状可能なものを推進。 ・キーワード「9年間を見通した計画づくり」
		・学級経営や生徒指導、道徳の時間との連動	◎	◇全校で確認「よくわかる!七小」 ◇特別活動やNPU、道徳において自分事として、主体的・協働的に参画する支持的風土の確立
エ	各学年の学習内容の確実な定着を図る教育課程・指導方法	・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善(各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりす	◎	◇本年度研究の主題「わかる・できる・つかえる」子どもの育成～主体的・対話的で深い学びを視点とした授業づくり(全教科) ○授業のUD化 ○つかえる場の意識化 →児童も教師もつかえる(発揮する)場を意識した授業 ・子どもたちへの発信 ・授業のモデル化

		ることに向かう過程の重視)		<ul style="list-style-type: none"> ・見方・考え方とつかえるを意識して ・つかえるとはどんな学習場面か ○個人や学年での意識化 ・ゴールから考えて共有化 ・単元計画から共有化 ・単元の目標で共有化 ・わかる・できる・つかえるウエイットの視覚化 ◇各教科の単位時間の中に「対話」する場面を意識的に導入する。 ◇NPU
		<ul style="list-style-type: none"> ・日常授業の改善（「見通す・振り返る」学習活動の重視、教えることと考えさせることを関連付けた指導、言語活動の充実等） 	◎	◇持続可能な七小スタイルへ ◇上記の本校研究内容の日々具現化 日常的なスタイルとしての確立
		<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し指導を効果的に位置付けた年間指導計画（学期中及び学期末における復習のための時間の確保、休み時間・放課後等を利用したつまずきの解消、教育課程全体を通じた適切な反復による学習指導） 	◎	◇算数科・国語科を中心に、単元テストの分析 →定着の低い問題パターンを放サボや朝学習にて反復学習 →年間計画の余時数を利用した反復学習の位置づけ →今年度より読解力の取組を強化・継続化
		<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な習熟度別指導やチームティーチング 	◎	◇各学年のターゲット単元における少人数指導を計画（TT教員） ◇支援員・フリー教員の意図的・計画的な配置。
		<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機などICT機器の全教室常設及び日常的活用 	◎	◇実物投影機は全学級配置済。 →ノート指導等での日常的な使用 ◇プロジェクターの各教室の常設化を進行中
オ	体力向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト等を活用した授業づくり 	△	◇教育課程への反映 →本年度は課題である①腹筋②状態起こし③長座体前屈への取組強化 ※前年度調査項目及び各学年の傾向を数値により把握⇒授業改善のポイントとして明確・意図的に教育課程へ反映、計画・具現化につなげる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業以外の一校一実践 	○	◇なわとびやモースポが該当
		<ul style="list-style-type: none"> ・運動の目安の時間の設定 	△	◇モースポ等への時間配分 ◆発達段階に応じた目安の時間は設定していない。
カ	特別支援学級に在籍する児童生徒や、通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童生徒へのきめ細かな指導・支援		◎	◇特別支援団フリー教員の活用 ◇教育支援部の推進計画 ◇特別支援コーディネーターによる「通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童」の見とり、教育相談の実施、参加 ◇特別支援教育支援員の適切な配置 ◇学習室の設置 →集団への不適応対応
キ	学習評価の充実		○	◇担任以外によるテストの採点分析 ◇教務による評価基準の提示 ◇日常的な目標と評価の一体化の意識化→実践・具現・深化
ク	学校間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・域内の幼保小連携 	○	◇教務による幼保訪問（新入学生引継ぎ）1～3月
		<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携 	○	◇七飯中学校区小中連携会議

(4) 地域・家庭との連携

	事業項目	具体	実践状況	実践内容・見通し等
ア	コミュニティ・スクール(CS)の積極的な導入	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民等の参画による学校運営の改善・充実 ・特色ある教育活動を通じた地域貢献 	○	◇学校運営協議会の開催 ◇地域見守り隊の発足
			○	◇地域子ども会活動への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・担当者の配置 ・三者連絡協議会の開催

イ	地域学校協働本部の設置及び活動の促進		○	◇学校運営協議会の推進 ◇三者連絡協議会の推進
ウ	地域と連携した土曜日の活用の在り方の見直し	・土曜日の教育支援体制の構築 ・土曜授業の実施	× ×	
エ	児童生徒が勉強と向き合う時間の確保	・家庭学習やメディアに触れる時間等の目安の設定	○	◇「よくわかる七小！」等による啓発活動
		・望ましいネット利用の定着に向けたルールづくり	○	◇七飯中学校区小中連携会議、生徒指導委員会による目安プリントの配布 ◇七飯中学校教員による6年生対象の情報教育（情報モラル教室）実施
		・家庭と共通理解を図った上での生活リズムチェックシート活用	×	
		・無理のない定着を可能とする反復型宿題の工夫 ・家庭学習ノートの実践 ・土日及び長期休業中の家庭学習を担保する工夫	○	◇学習部による学校として統一した家庭学習のルール作り ◇学習部発行arco irisによる家庭学習の目安配布
オ	社会教育との積極的な連携・社会教育プログラムの活用 (地域住民が主体となった「子どもの生活習慣改善」との関わり)	・社会教育事業との連携 ・家庭教育に関する支援・協力	△ ○	◆新型コロナの状況を踏まえた計画 ◇学校通信（あかまつ・arco iris）等のお便り、HPを活用した情報提供
		・地域の社会教育事業への参加奨励・出欠集約等の協力	○	◇水泳教室…今年度実施なし ◇ファミリー絵画展、いじめ標語 等
		・関連する研修会の教職員の参加	△	◇今度、状況を踏まえながら計画化
		・地域の人材の活用促進	○	◇CSの事業計画としてゲスト・ティーチャーの招聘、全校計画作成
カ	課題や危機意識の共有及び協働関係の構築	・レーダーチャート等を活用した学力や学習状況等に関する分かりやすい情報提供	◎	◇学習部で分析。職員で情報共有。 ◇保護者へは学校便りで情報提供。
		・事務職員加配を活用した取組	○	◇HPの作成・更新 ◇各種調査・アンケートの集約・分析
		・保護者アンケート等の工夫改善	○	◇学校教育計画及び学校評価の短期的なサイクルによる運営と即時改善
キ	休日や長期休業中等の補充的学習サポートの実施と学校サポーターの積極的活用		○	◇中学校生徒による夏季休業サポート学習への参加協力（七飯中学校区小中連携会議、学力向上委員会）

(5) その他

	事業項目	具体	現状	実践内容・見直し 等
ア	必要に応じ、道立教育研究所・北海道教育大学教職大学院等との連携	・道立教育研究所「学校力向上研修・研究員」の受入れ	×	◇今年度依頼なし
		・年間を通じた教職大学院生の実習受入れ	×	◇今年度依頼なし
イ	成果・課題の域内、全道への積極的発信	・取組成果のHPへの随時掲載及び更新	▲	◇自校運営のHP開設(予定)
		・全授業の原則公開	○	◇実施
		・学校見学の積極的受入れ	○	◇実施
ウ	学校における働き方改革「北海道アクション・プラン」を踏まえた取組	・本来担うべき業務に専念できる環境の整備	○	◇週時程の見直し ◇学校協働体制による担任の負担軽減 ・問題対応への協力 ・算数科のテスト採点、問題作成 ◇公務支援システムの導入 ◇ICTを利用、活用しての時間短縮 ◇GIGAスクール構想具現化、早期実現
		・勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実	◎	◇職員会議、面談による職員への啓発 ◇業務内容のスリム化（費用対効果） ◇定時退勤日の設定 ◇学校閉庁日の設定（自治体）
エ	特別な教育的支援を必要とする児童生徒を含む全ての児童生徒が、より学習に集中できるようにするための学校環境、教室環境の整備（(3)ウ、エ、カと連動）		○	◇学校全体による協働体制の構築 ・情報共有のスピード化と的確・迅速な対応 ・学級支援体制（副担任配置）の構築 ◇複数教員が学級にいたることが普通という意識 ◇管理職による巡回、指導 ◇教材教具の適切な配置→教育環境の安定化